

2005年度農村計画委員会活動報告



美しい日本を守り育て作る
環境共生の知恵・地域に固有の文化

農村計画の対象エリア

北緯45°

国土面積 3,778万ha

総人口 12,770万人

3300km

東経123°

都市計画区域面積920万ha 24%

非都市計画区域 2900haが農山漁村

農家人口1346万人：10%!!

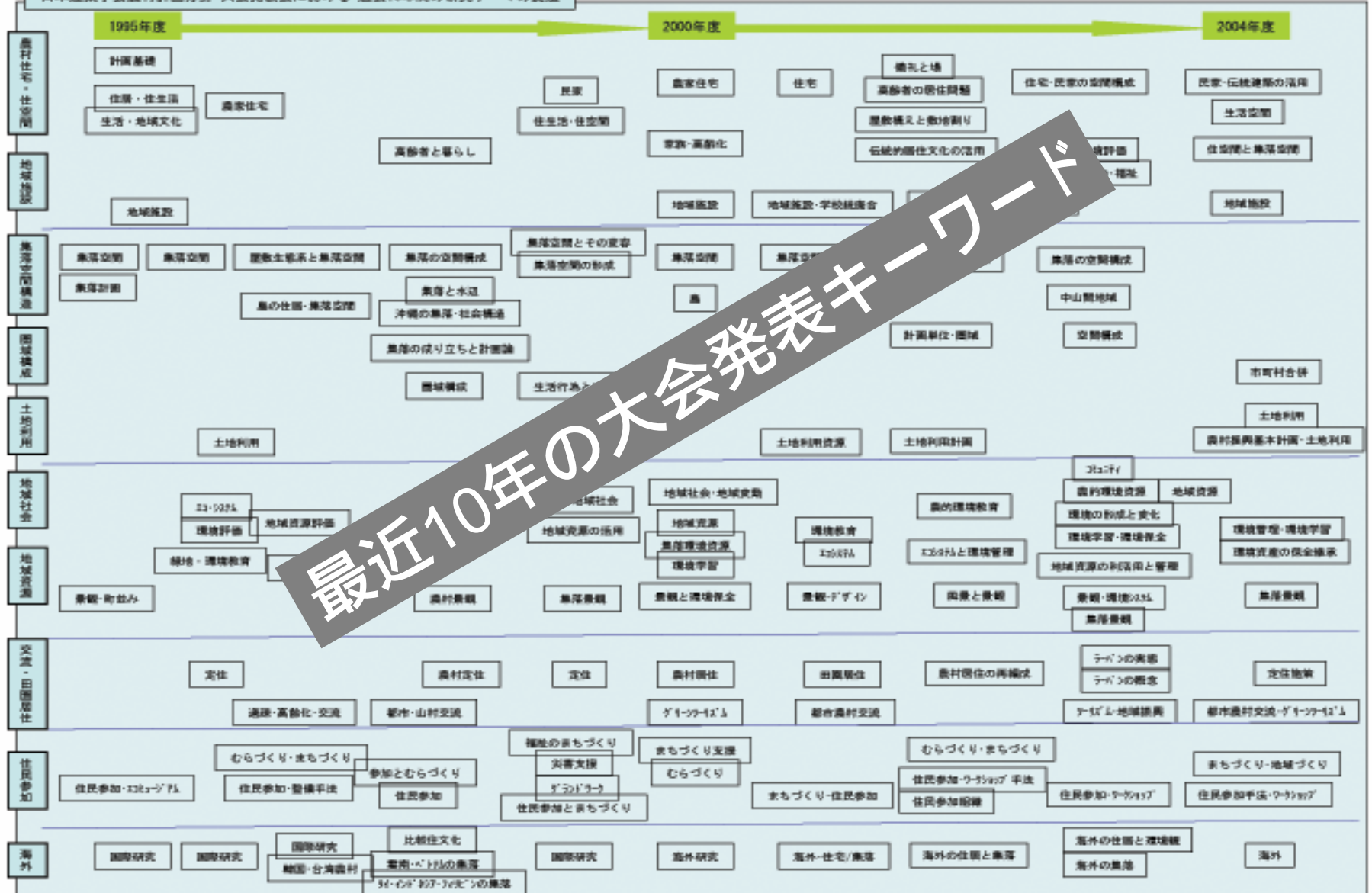
北緯20°

東経154°



農村計画・研究のキーワード

日本建築学会農村計画分野 大会発表会における 過去10年間の研究テーマの変遷



※大会発表会に使用するセッション名は1996年度から存在する（各セッションの論文数は5-10題程度、各年計40-100題程度）。図は、テーマ（キーワード）として各年度のセッション名を利用した。（作成：斎藤）

最近のキーワード

住空間と集落空間

農村振興計画

民家

生活空間

住環境

民家・伝統建築の活用

地域コミュニティ

環境管理

05年度大会発表

住民参加によるむらづくり・ワークシヨップ
集住の知恵と環境共生デザイン
自然災害に強い農村のしくみづくり

環境学習

集落

集落

エコシステム

定住政策

都市農村交流

グリーンツーリズム

むらづくり

住民参加

ワークシヨップ

まちづくり・地域づくり

土地利用

ラーバンの実態

地域

海外の住居と集落

環境資源

環境資源保全継承

地域資源

エコシステム

都市農村交流

住民参加

まちづくり・地域づくり

土地利用

農村計画委員会組織

農村計画メンバー / 推薦 + 公募 / およそ120名 (会員数37000人の3%)

本委員会 / 70定年・2期4年 / 35名

農村計画情報交流小委員会 / 10

農村計画システム小委員会 / 12

田園建築・景観デザイン小委員会 / 14

農村エコシステム小委員会 / 15

集住文化小委員会 / 15

ラーバンデザイン小委員会 / 15

ラーバン出版企画WG

環境教育研究会/12

農村企画
WG

ルーラルネット
WG

アジア農村
フォーラムWG

06年度改組

農村計画情報交流小委員会 / 10

国内外の農村計画上の学術情報交流の拠点を形成する
わが国の農村集落のデジタルアーカイブを作成する
ウェブ上に「美しい農村集落デジタルアーカイブ」作成
農村集落における国際的なデザインワークショップを支援する

農村計画システム小委員会 / 12

農村・都市を連続的に対象とする新たな計画システムの構築
都市及び縁辺部の空洞化、過疎地域崩壊の危機に対応

農村エコシステム小委員会 / 15

人間活動によって支えられる農村エコシステムの全体像の解明

集落域におけるエコシステムの全体像の解明

農村エコシステムを持続的に維持するための計画論確立

田園建築・景観デザイン小委員会 / 14

田園建築の地域特性と環境共生的・生活文化的な建築のデザイン手法に関する調査研究

ヴァナキュラー性を有する田園建築について、事例分析による21世紀の建築像を検討

建築とランドスケープの調和した景観形成に資するデザイン・計画手法についてのシンポ開催

集住文化小委員会 / 15

多民族が居住するアジアに残されている自然環境と人間との共生 / 自然環境を持続的、循環的に活用 / アジアの多様な集住文化について計画論的視点から比較分析 / 健康で快適な生活環境を形成

アジアの集住文化に関する研究成果の資料収集・整理

ラーバンデザイン小委員会 / 15

日本型ラーバンの研究フレームの整理

海外事例に見るラーバンの要件整理

ラーバンデザインのためのコンセプト構築

ラーバン実現化のための諸問題の検討

ラーバン出版企画WG

環境教育研究会 / 12

科研「児童生徒の農的体験を通じた環境教育に関する研究」（平成11 - 13年度） 2002年度大会研究協議会「子どもの農的体験からみた学校・地域環境づくりの新たな展望」の成果を踏まえ、出版企画、編集、公開研究会を通し、環境教育の普及

全国の会員 & 各地の農村計画メンバーとの研究交流

地方で
公開の
研究会

農村計画メンバーへのメイリングの充実
ホームページの充実

ホームページ・メイリングの充実
ルーラルネットWG

&

情報交流小委

デジタルアーカイブ
プラットホーム構築

委員長便り

| | | | |
|----------|-------|----------|-------|
| 20060105 | NO.12 | 20051007 | NO.11 |
| 20080826 | NO.10 | 20050725 | NO.9 |
| 20050510 | NO.8 | 20041211 | NO.7 |
| 20041124 | NO.6 | 20041012 | NO.5 |
| 20040921 | NO.4 | 20040703 | NO.3 |
| 20040512 | NO.2 | 20040410 | NO.1 |



農村計画委員会

Rural Planning Committee

- 委員会組織の沿革・概要
- 委員会規程
- 委員
- 委員会議事録

- 大会関連
- 学術研究会関連
- 環境教育科研

- 委員会構成
- 各支部
- 関連リンク

- AIJ電子フォーラムへ
- シンポジウムなど
- メーリングリスト

- 刊行物など

- 日本建築学会
- 日本都市計画学会
- 農村計画学会
- 日本造園学会

Copyright (C)2000-2004 Architectural Institute of Japan/Rural Planning Committee
 ご質問・ご意見は
 ルーラルネットWG
 shibata@nishitech.ac.jpまで

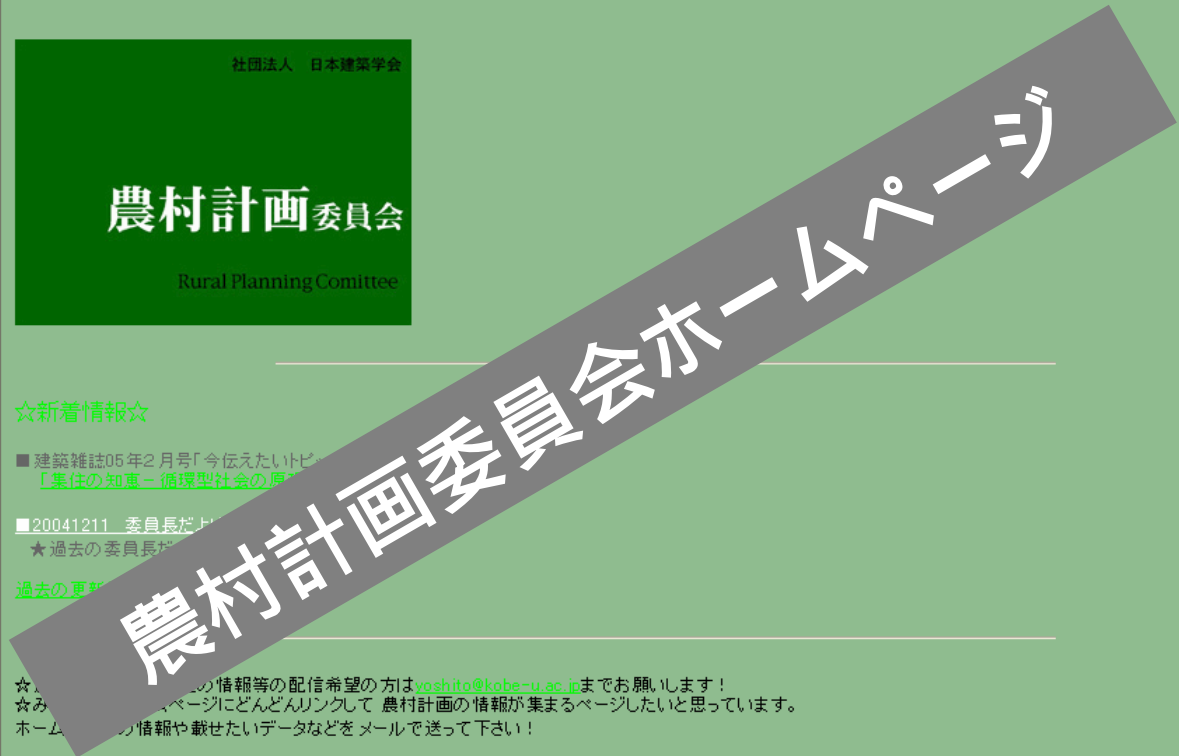


☆新着情報☆

- 建築雑誌05年2月号「今伝えたいトピ」
「集住の知恵-循環型社会の原動力」
- 20041211 委員長挨拶
★過去の委員長挨拶

過去の更新

☆...の情報の配信希望の方は yoshito@kobe-u.ac.jp までお願いします！
 ☆...ページにどんどんリンクして 農村計画の情報が集まるページしたいと思います。
 ホーム...の情報を載せたいデータなどをメールで送って下さい！



美しい集落：沖縄編

公開研究会 05年6月 那覇市ぶんかテンプス館
本委員会

春季学術研究会では、若手研究者のフィールドノートを中心に、新しい視点、新しい発見、最新の成果について報告を受け、集落空間の魅力を記述する方法について共通の認識を深めた

翌日は、現地を訪ね、フィールドノートを実践し、議論の内容を実感するとともに、フィールドノートの有効性を確認した



30名の参加者が
フィールドノート発表



主な活動12

日韓公開研究交流会

05年6月 韓国・慶州教育文化会館

ラーバンデザイン小委



120
が が

が

3700

農村企画WG

ルーラルネットWG

アジア農村フォーラムWG

120

7 , 3WGが

03

農村計画情報交流小委員会

農村計画システム小委員会

田園建築・景観デザイン小委員会

農村エコシステム小委員会

集住文化小委員会

ラーバンデザイン小委員会

環境教育研究会

04
沼野

が

鎌田

岡田

ラーバン

が, 川嶋

WGが



広くアジアに視野を広げ、
共通のテーマで研究交換
・国際交流をはかる

アジア農村フォーラム WG

韓国農村建築学会と農村計画委員会の交流は1991年に始まる。
韓国の経済発展に伴い、
日本の農村整備が手本とされ、
さらに共通の課題について研究
交換が始まった。

2001：韓国・南部

2002：日本・九州

2003：韓国・清州

2004：日本・東北

2005：韓国・慶州

と相互訪問の研究会が定着。

05年度は、ラーバンエリアを
テーマに、農村の伝統文化と都
市発展の調和について交換

近畿大会農村計画協議会

集住の知恵と環境共生デザイン 集住文化小委

SBN 978-7655-2482-5

C3052 ¥2000E



定価=本体 2,000円+税



美しく住むかたち

集住の知恵

日本建築学会編

技報堂出版



日本を含めたアジアの各地域で継承されている多様な集住文化を計画論的な視点よりまとめたキーワード集「集住の知恵 - 美しく住むかたち」が7月に刊行された

集住の知恵・76キーワード

立地を読み解く、環境に適応する、自然 > 人

いぐね・うろこ状干拓・かいによ・桂垣・カレース・腰当の森・里山・散居・照葉樹林文化・棚田・溜井・溜池・築地松・風水・福木・間垣・水塚・水舟・輪中

自然と住み合う、自然を活用する、人 > 自然

石垣・板倉・うこぎ垣・オンドル・カナッドとルアンタイ・かっちょ・かわ・カン・ク
リーク・ゲル・こみせ・高床式住居・たねんぼ・デチョン・天水・通り庭・版築・ま
いまい井戸・茅亭・ヤオトン・雪ムロ

集まって住む形、集住を仕掛ける、人・人

アシビナー・隠居・うだつ・馬屋・隠地・共食儀礼・集団季節移住・出作り小屋・ト
ネヤ・土楼・庭田植え・農村舞台・ぱったり・舟小屋・方言地名・結・若衆宿

集まって住む形、集住を仕掛ける、人・神

アサギ・御嶽・産土神の村・カーンツァイバーン・神楽・カミヤマカムミチ・川祭
り・結界・シーサーと石敢當・地藏盆・水神・スージーグァーの町・中門造り・チヨ
ルテン・鎮守の杜・ナワサンガ・虫送り・雷電講・来訪神の村

協議会では、これを題材にして、環境共生のための現代的な課題、デザイン論の議論を深めた

近畿大会PD：農村計画＋特別研究委

2015年度日本建築学会(近畿)
農村計画部門＋特別研究部門
パネルディスカッション資料

震災直後の居住支援を考える

農山漁村集落の災害復旧支援 その1



2005年9月
社団法人 日本建築学会
農村計画委員会
農山漁村集落における自然災害復旧支援計画特別研究委員会



目次

| | |
|---|------------|
| 口絵 平成16年度に発生した自然災害（新潟県中越地震） | 1～2 |
| プログラム | 3 |
| PDテーマ：「震災直後の居住支援を考える」－農山漁村集落の災害復旧支援 その1 | 4～7 |
| 伊藤庸一 | |
| 1 パネルディスカッション報告者レポート | 9 |
| 被災直後の中山間集落における災害対応に関する課題 | |
| －新潟県中越地震と台風23号による孤立集落の事例を通じて－ | 浦上健司 10～13 |

本PDでは、震災直後の農山村集落の人々の行動を概観したうえで、震災後の居住支援にテーマを絞り、避難施設、仮設住宅、被災住宅の復旧・再建について、新潟県中越大震災、阪神淡路大震災や各地の自然災害における具体的事例をもとに議論を深め、そのうえで、震災半年を過ぎた後の集落の人々の暮らしについての報告をもとに、農村計画委員会、農山漁村集落災害復旧支援特別研究委員会として取り上げるべき次のテーマについて意見を交換した。

被災集落調査・支援活動

農村計画委員会 + 特別研究委員会

05年1月 農村計画委員会・中越地震緊急報告を始まりに

05年4月 中越復興シンポで報告・中越被災地調査

05年6・7・8・9・10月・・・ 玄界島被災地調査・ワークショップ・シンポジウム・懇談会・研究会継続

05年7月におけるスリランカ津波被災地調査報告

05年9月 特別研究委員会小委員会：大会協議会「中越地震」で報告

05年10月 淡路島復興住宅調査

05年10月 建築学会「中山間地域等の地震防災と復興対策への提言」

06年1月 公開研究会・自然災害で居住地が甚大な被害を受

けた農山漁村集落の再建計画

06年1月 豊岡洪水被災調査ほか



甚大な被害を受けた 農山漁村集落の再建を考える

公開研究会 06年1月 建築学会
農村本委 + 特別研究委



06年度技術部門設計競技は「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画」である。これは、最近の福岡県西方沖地震、新潟県中越地震など、たび重なる自然災害で農山漁村集落が被害を受けていることに鑑み、集落復興、集落再建のアイデアを交換し、集落復興・集落再建計画技術の発展をうながすことを目指している。

本研究会では、新潟県中越、福岡県玄界島を事例とした復興計画の報告、ならびに05年10月に出された「中山間地域等の地震防災と復興対策」提言の報告をもとに、集落復興・集落再建について議論を深めた。

06年度日本建築学会技術部門設計競技

アイデアコンペ

自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画

2006年度日本建築学会技術部門設計競技アイデアコンペ 「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた 農山漁村集落の再建計画」

玄界島は福岡県西方沖地震により斜面地盤が崩落し、居住地のほとんどの住居が大きな被害を受けた。およそ200世帯が仮設住宅での生活を余儀なくされ、県、市では全戸建て替えの集落再建計画を構築中である。同様の問題は新潟県中越地震でも起きている。日本の国土面積の8割に近い農山漁村では、地震をはじめ、噴火、津波、洪水、土石流などの自然災害によりこれまでも各地で大きな被害を受け、集落再建を余儀なくされてきた。いつ起こるか分からない自然災害に対し、より安全な集落整備をすすめるとともに、万が一集落再建を余儀なくされた場合の計画技術の研鑽も怠ることはできない。このアイデアコンペは、福岡県玄界島または新潟県中越、あるいはその他の自然災害を受けた農山漁村集落を取り上げ、防災技術・減災技術に裏付けられた、より安全で、地形や風土に調和し、地域コミュニティに配慮した集落再建の提案を期待している。

主催
日本建築学会 農村計画委員会

応募要領

1 | 課題
自然災害で居住する農山漁村集落の再建計画

2 | 応募資格
本会個人会員(学生会員)または会員のみで構成するグループとする。なお、同一の集落、または代表者名で複数の応募することはできない。

3 | 条件
1—地震で大きな被害を受けた福岡県玄界島、新潟県中越またはその他の自然災害を受け、再建計画を立案中、または再建中、あるいはすでに再建した農山漁村集落のいずれかを計画対象とする。
2—地形・風土との調和を回り、地域コミュニティに配慮した居住地再建計画のアイデアを提案すること。
*なお、「中山間地域等の地震防災と復興対策への提言—新潟県中越地震に鑑みて」を参照のこと(本誌 2005年12月号pp.75-79および本会ホームページに掲載)。

4 | 審査員(敬称略、50音順)
審査委員長:
伊藤直一(日本工業大学)
審査員:
内田文雄(山口大学)
岡田知子(西日本工業大学)
河野泰治(福岡大学)
重村力(神戸大学)
高見沢邦郎(首都大学東京)

②代表者および共同制作者全員の氏名・ふりがな・会員番号・所属
③上記中の事務連絡担当者の氏名・ふりがな・会員番号・所属・電話番号・E-mailアドレス

2—再建計画案:A1 1枚以下(以下)の内容をおさめる。用紙は縦使いとし、バツル化しないこと。

①対象集落の概要(位置図、集落概要、自然災害の概要等を明記する)
②再建計画の方針やコンセプト(とくに地形・風土との調和、地域コミュニティについて配慮したことを明記する)

③居住地計画(住居群平面計画や立面、居住地配置計画、集落の土地利用計画や断面計画などを用いて提案内容を明確に示す)

*注意:提出図面には、氏名・所属など応募者が特定できる情報を記載しないこと。

6 | 提出期限

2006年6月15日(木)
(当日の受付締切は17:00。郵送の場合は当日消印有効。ただし宅配便は不可。)

7 | 審査会

※は公開で行い、7月7日(金)に実施予定である。詳細は後日、本会ホームページに掲載する。

④ 表彰

最優秀賞—2点以内・賞状および顕賞40万円
優秀賞—3点以内・賞状および顕賞10万円
佳作—若干・賞状および顕賞5万円
ただし、審査結果において該当作品なしとする場合がある。

9 | 審査結果の公表等

入選作品は2006年9月の日本建築学会大会農村計画部門+農山漁村集落における自然災害復興支援計画特別研究委員会パネルディスカッションの席上で表彰する。入選作品の視察回遊は、講評とともに日本建築学会大会および建博会館で展示し、審査経過とともに「建築雑誌」および本会ホームページに掲載する予定である。

10 | 参考情報

1—参考資料
福岡県玄界島、新潟県中越の地図、基礎データは本会ホームページに掲載する。その他の集落を計画対象とする場合は、応募者が地図や被災状況などの資料を用意すること。
2—関連研究会の開催
本設計競技に関連した研究会を1月28日(土)に開催する予定である。詳細は、p.86および本会ホームページを参照のこと。

11 | その他

1—応募図面および関係書類は返却しない。
2—入選作品の著作権・特許権は応募者に帰属するが、「建築雑誌」・本会ホームページへの掲載や日本建築学会編の出版物に用いる場合は、無償での使用を認めることとする。
3—建線に関する質問はE-mailで2006年3月1日まで問合せ先で受け付ける。回答は本会ホームページに掲載する。

12 | 提出先・問合せ先

(社)日本建築学会事務局「技術部門設計競技」係

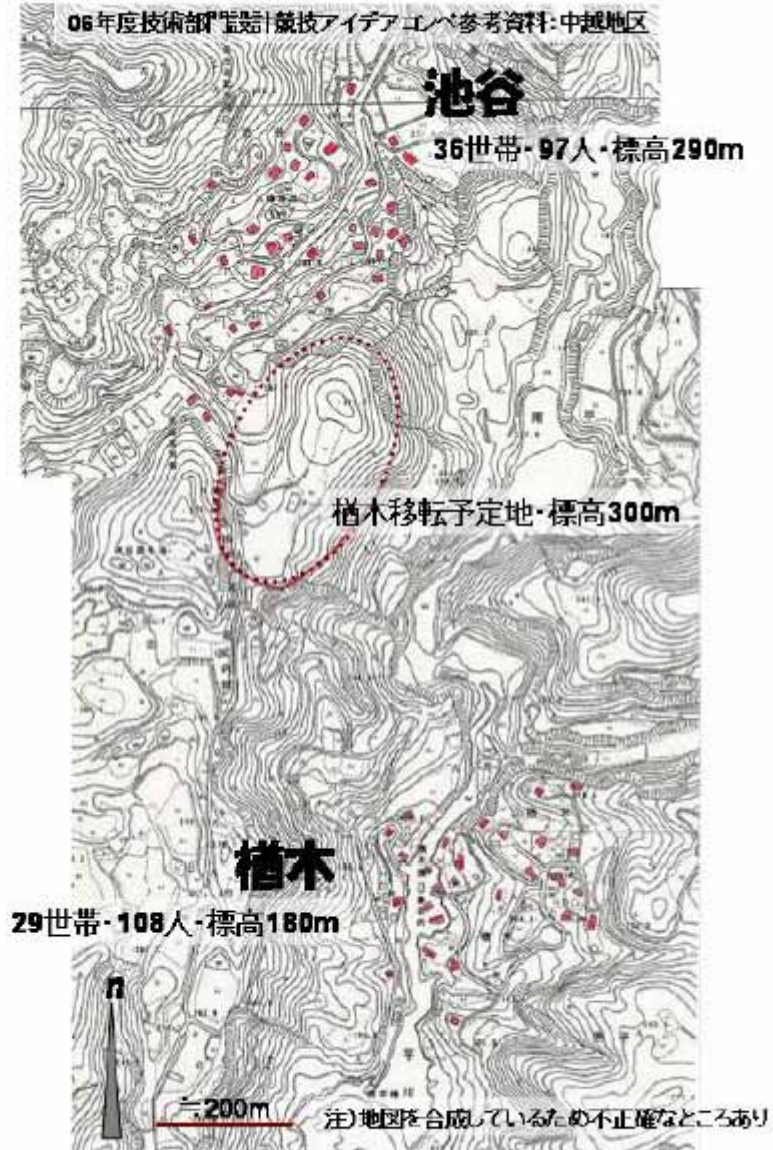
玄界島は福岡県西方沖地震により斜面地盤が崩落し、居住地のほとんどの住居が大きな被害を受けた。およそ200世帯が仮設住宅での生活を余儀なくされ、県、市では全戸建て替えの集落再建計画を構築中である。同様の問題は新潟県中越地震でも起きている。農山漁村ではさまざまな自然災害によりこれまでも大きな被害を受け、集落再建を余儀なくされてきた。いつ起こるか分からない自然災害に対し、より安全な集落整備をすすめるとともに、万が一集落再建を余儀なくされた場合の計画技術の研鑽も怠ることはできない。このアイデアコンペは、福岡県玄界島または新潟県中越、あるいはその他の自然災害を受けた農山漁村集落を取り上げ、より安全で、地形や風土に調和し、地域コミュニティに配慮した集落再建計画の提案を期待している。

6月15日締切

新潟県中越モデル



| 集落名 | 世帯数・人口 | 家屋の全壊率 | 標高 | 概要 |
|-----|-----------|--------|-------|--|
| 油夫 | 20世帯・68人 | 68% | 約240m | ・集落の大部分が地盤災害をおこした集落。 ・傾斜地に家屋が点在し、上部には山古志小中学校を建設中。 |
| 梶金 | 20世帯・85人 | 100% | 約200m | ・国道を挟んで、傾斜地に家屋が点在。 |
| 木籠 | 24世帯・65人 | 100% | 約150m | ・河道開鑿により家屋の半分が水没。復旧する県道沿いを新しい集落地に検討中。 |
| 大久保 | 19世帯・51人 | 95% | 約280m | ・羽黒山の麓の集落。東川流域で大規模な表層崩壊。 |
| 池谷 | 36世帯・97人 | 100% | 約290m | ・県道を挟んで、傾斜地に家屋が点在。 |
| 櫛木 | 29世帯・108人 | 100% | 約180m | ・河道開鑿により家屋の一部が水没。復旧する県道沿いを新しい集落地に検討中。 |



福岡県玄界島モデル

◆玄界島現況

概要

- 人口 : 700人 (男: 339人 女: 361人) H17.2.28 住民基本台帳
- 世帯数 : 232世帯 H17.2.28 住民基本台帳
- 学生数 : 小学生 34名 中学生 18名 高校生 37人 H17.3.22 現
- 就業者数 : 301人 (うち漁業就業者 154人) H12 国勢調査
- インフラ : 道路総延長 3.1km 水道普及率 97.3% (井戸 2.7%)
 汚水処理 漁業集落環境整備
 医療機関 診療所1カ所、歯科診療所1カ所

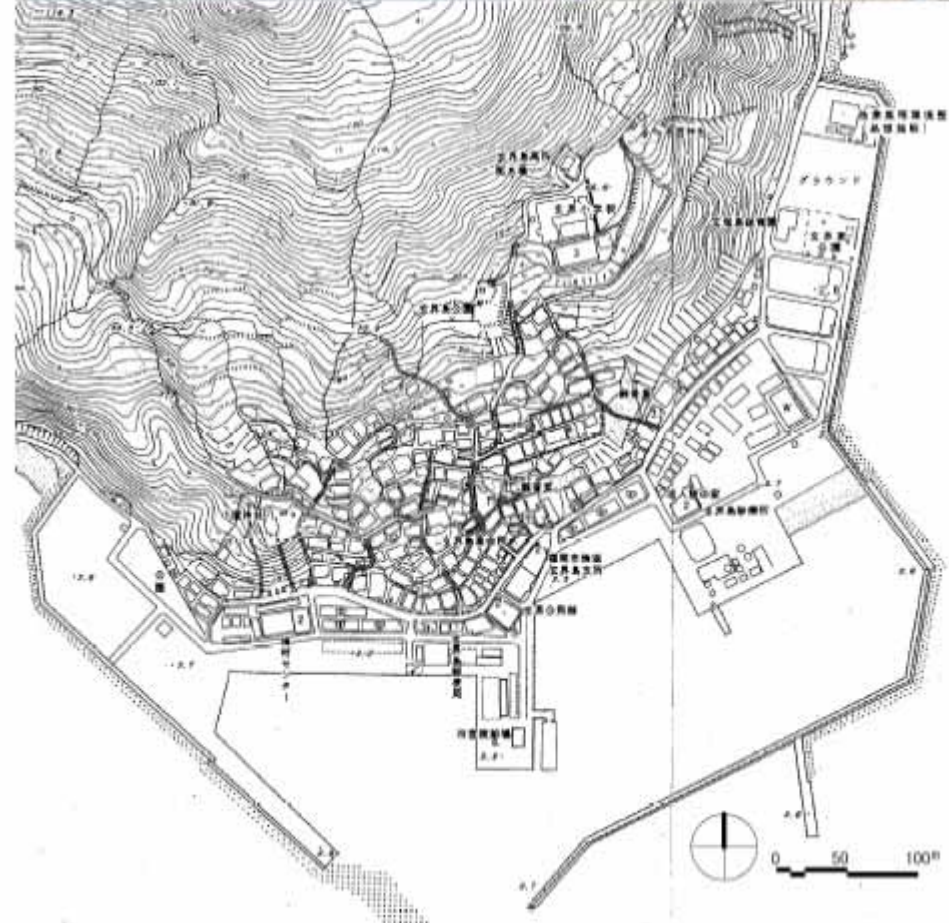
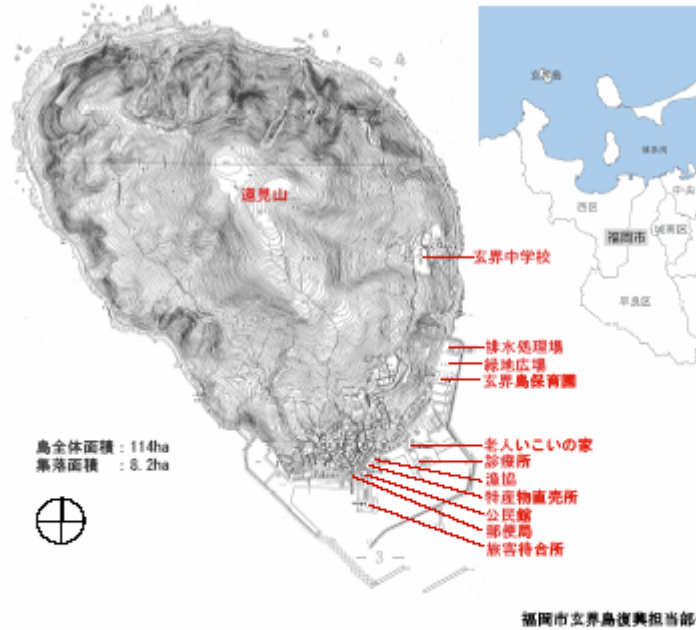
被害状況

- 人的・物的被害 : H17.4.19 負傷者 10人 住家被害 214戸
- 避難状況 : H17.3.20 避難者数 433人
 4.19 避難者数 418人
- 島滞在住民 : H17.5.1 364人
- 被害認定状況 : H17.5.6 全壊 107件 半壊 46件 一部損壊 61件(全214)
 (内閣府基準に基づく被害度認定調査結果)

◆被災状況写真と地図



◆島内の主要施設



06年度大会PD

| テーマおよび主旨 | 内容および担当者 |
|----------|----------|
|----------|----------|

- テーマ -

自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画

司 会 : 三橋伸夫 (宇都宮大学) 予定
副司会 : 内田文雄 (山口大学) 予定
記 録 : 後藤隆太郎 (佐賀大学) 予定

甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建を考える 農村本委 + 特別研究委

- 主旨 - (100字以内厳守)

福岡県西方沖地震や新潟県中越地震を始め、台風、豪雨、大雪、津波、噴火などの自然災害で農山漁村集落は大きな被害を受けてきた。いつ起こるかわからない自然災害に対し、より安全な集落整備をすすめるとともに、万が一集落再建を余儀なくされた場合の計画技術の研鑽も怠ることはできない。06年度技術部門設計競技では表題の集落再建アイデアコンペを実施する。本PDでは、第1部でコンペの審査報告を行い、第2部で被災地の復興・再建の現況と課題について報告をいただき、集落復興・再建計画技術について議論を深める。

第1部：06年度技術部門設計競技表彰式

- (1) 審査報告
- (2) 表彰式

第2部：パネルディスカッション

- (1) 主旨説明
- (2) 入賞者プレゼンテーション

- (3)新潟県中越における復興計画
- (4)福岡県玄界島における復興計画
- (5)仮題・災害事例報告
- (6)農山漁村集落の防災性向上と復興対策

- 提言
- 3.討 論
- 4.まとめ

発 言 者

時間

PC、
OHP
使用

未定
伊藤庸一(日本工業大学)
入賞者
三井所清典(予定)
岡田知子(西日本工業大学)
未定
重村力(予定)
河野泰治(予定)

10
10
10
20
20
20
20
40
10

すべ
てPC

06年9月7日(木)9:15~12:00

中国・青島の歴史街区の保存を考える

公開研究会 06年2月 中国・青島理工大学

集住文化小委



中国・青島には、19世紀末のドイツ進駐下で都市計画が制定され、現在の青島市旧市街の基本構造になっている。当時、すでにいくつかの街区で建設が始まった。20世紀初頭、日本が青島に進駐したが、都市計画の基本は踏襲され、都市計画に基づいた建設が続行された。中国復権後も、歴史街区は引き継がれてきたが、都市開発が急展開している。そこで、青島理工大学、青島歴史建築保存協会ほかの参加のもとで、現地調査に基づいた調査成果を報告し、町並み保存について意見交換をした。



農村計画研究の新しい動き

公開研究会 06年3月 学会会議室

本委 + 関東支部農村建築専門委

主な活動6



最近5年分の博士論文・修士論文90テーマを収録

※2005.1-2月に行った近年の農村計画研究テーマ調査により収集されたデータ一覧です。(博士・修士別、年度順)

| | 論文タイトル | 著者 | 大学 | 年度 |
|--|---|-------|-------|------|
| 博士論文 | 農山村集落における空間管理の定量化に関する研究—特にグリーンツーリズムの展開と関連して— | 全銀景 | 東京農工大 | 2004 |
| | 人間と建築・環境との共生の認知に基づいた空間の秩序化に関する研究 | 根来宏典 | 日大 | 2004 |
| | 伝統的建造物群保存地区制度における誘客型の町並み保全手法に関する研究—青森県弘前市他町重要伝統的建造物群保存地区を事例として— | 石川清治 | 東北大 | 2004 |
| | 住民参加型地域振興におけるワークショップの適用手法に関する研究 | 黒岩藤子 | 宇大 | 2004 |
| | 地域住環境の経年評価と継続活用手法に関する研究 | 大沼正寛 | 東北大 | 2003 |
| | 高流動性社会を背景とした過疎地の集落環境の利用管理に関する研究 | 山崎義人 | 早大 | 2003 |
| | 農山村地域における住民参画による持続的な土地利用計画策定のための調整支援手法に関する研究 | 藤沢直樹 | 日大 | 2002 |
| | 屋敷回り空間の「見え方」に関する研究—農村集落と都市部住宅地を事例として— | 小野寺淳 | 千葉工大 | 2002 |
| | 農村地域における地域自然の存在形態とその活用手法に関する基礎的研究 | 斎藤真司 | 東工大 | 2002 |
| | 地域社会における自治組織形成のしくみと構造に関する基礎的研究 | 鈴木麻衣子 | 東工大 | 2002 |
| 都市・農村交流が都市住民・地域住民の「生活環境に及ぼす効果」に関する研究 | 前田真子 | 奈良女大 | 2001 | |
| 農村地域における商業環境整備に関する基礎的研究—都市近郊と中山間を事例として— | 香本繁 | 千葉工大 | 2001 | |
| アジア稲作地域の生活空間における水利用と水利用の比較研究 | 根岸(岡山)由紀 | 日大 | 2000 | |
| 都市近郊農村地域における粗放化現象の空間的特徴—つくば市を事例にして— | 今坂隆宏 | 東京農工大 | 2004 | |
| 都市近郊農村地域における粗放化現象の空間的特徴—つくば市を事例にして— | 今坂隆宏 | 東京農工大 | 2004 | |
| 線引き廃止に伴う用途自地地域の都市的土地利用に関する研究—香川県高松市を事例として— | 菅原浩也 | 明大 | 2004 | |
| 中山間地域における空き家およびその管理の事象に関する研究—山梨県早川町を事例として— | 磯佐敏彦 | 早大 | 2004 | |
| 参加型地区計画のための大字単位別にみた住民意識の比較研究—年都市宮市蔵山地区— | 仲薬志 | 宇大 | 2004 | |
| 農村地域における住民各世代の地域活動から見た中山間地域の活性化に関する研究 | 八木隼 | 千葉工大 | 2004 | |
| 階段の安全性と快適性に関する建築計画的な研究 | 竹腰俊郎 | 東工大 | 2004 | |
| 北海道大会より、若手研究の顕彰と最新の研究関心を把握するため、各セッションから一押し発表の推薦、およびポスターセッションを農村計画ホームページに掲載 | 白石浩司 | 東工大 | 2004 | |
| | 尾高大雄 | 足利工大 | 2003 | |
| | 吉田由希 | 早大 | 2003 | |
| | 伊川由子 | 早大 | 2003 | |
| | 清水郁夫 | 足利工大 | 2003 | |

農村の有する資源が多角的な視点から評価されるなかで、それらを取り巻く研究も多様化している。そこで、近年の博士論文をテーマに、論文の概要とその後の取り組みを紹介していただき、いま注目されている農村計画研究について語るとともに、農村計画が目指すビジョンについて意見交換をした。

北海道大会より、若手研究の顕彰と最新の研究関心を把握するため、各セッションから一押し発表の推薦、およびポスターセッションを農村計画ホームページに掲載 若手育成

里山・里地の荒廃と再生

シンポジウム 06年3月 千葉大学

農村計画システム小委

都市近郊農林地の再生に向けた胎動と計画システム転換の課題



「里山を未来に引き継ぐために 千葉県
の里山の現状と里山条例」

「里山の再生に向けた展望」

「里山の荒廃と産廃」

「尼崎市における農的環境を生かしたまちづくり」

「市街地区域における農地の市民
的利用」

について報告を受け、近郊農林地
の課題とあり方、再生について議論を深
めた



06年度・新体制へ

本委員会 / 70定年・2期4年を勘案し、交替 / 35名

農村計画情報交流小委員会
農村計画システム小委員会
田園建築・景観デザイン小委員会
農村エコシステム小委員会
集住文化小委員会
ラーバンデザイン小委員会
環境教育研究会

時代を見据え
新たな課題を展望

被災集落支援計画小委員会

中山間地域組織小委員会

農山漁村景観保存小委員会

農村居住小委員会

集落共生デザイン小委員会

環境教育出版wg

田園空間計画小委員会

ラーバンデザイン出版wg